

## シリーズ 私の一冊の本

経営情報学部 上原 克仁 先生

ジェームズ・アレン 著

『「原因」と「結果」の法則』

閲覧室1階 159//A41 サンマーク出版ほか

これはある企業の社長が推奨されていた本です。今日、書店に行けば数多くの自己啓発本を目にしますが、1902年に書かれたこの原書はその先駆けとして、紹介してくれた社長をはじめ、今も多くの読者を勇気づけているようです。

私はこの類いの本を初めて手にしました。この本の一部を紹介しますと、私たちは日々、自ら心の中で思い考え、選んだ通りに行動しています。その結果が今日ここにあるのです。すなわち、自分こそが自分の人生の創り手で、良いことも悪いこともみな、自分が描いたシナリオの結果だということです。思い通り物事が進まない状況に遭遇した時に思考を停止し放置してあきらめる、そして、それを自分以外のものや状況や他人のせいにしてしようとする他責はナンセンスなのです。

成功するためには、自分の心をワクワクさせるような理想や目標を抱き、ビジョンを見続けることが必要だといいます。そして、成功は、その人が「自分はそれを達成できる」という強い信念を持って創造のパワーを向け続け、数々の犠牲を払い、粘り強く努力を続けてきた結果なのです。決して、その人が幸運だとか運命だとか、偶然などというようなことはないのです。理想や目標を達成しようとする信念があれば、私たちは自分自身を成功に導き、抱いた理想は自らの未来を予言していることにほかなりません。

失敗は理想や目標と調和しない思いや行いによってその達成を自ら妨害し続けた結果ですが、それは成功に至る通過点で、失敗を通じて身につけることのできる心の強さは、真の成功の確かな礎として機能するそうです。輝かしい未来へ向けた新しい出発点にもかかわらず、失敗したからといって悪意や羨望、怒り、不安、失望を心に抱いてはならないということです。

愚かゆえ、他責が得意で、オリンピック等に参加して活躍している選手を見て「すごいなあ」で終わらせていた私には、耳が痛くなる内容が多々ありました。奥が深く、いまだにこの本の内容全てを理解し、日々、実践できている訳ではありません。言うは易く行うは難しかもしれません。過去は変えられないけど未来は自分自身の力で変えられる、何事も自らの心の持ち方次第だということを理解させてくれます。やるかやらないかは自分次第です。この冊子はわずか100頁足らずで、数時間あれば読み終えることができます。何かがあって落ち込んだりした時、ぜひ、この本を手にとられてみてください。